

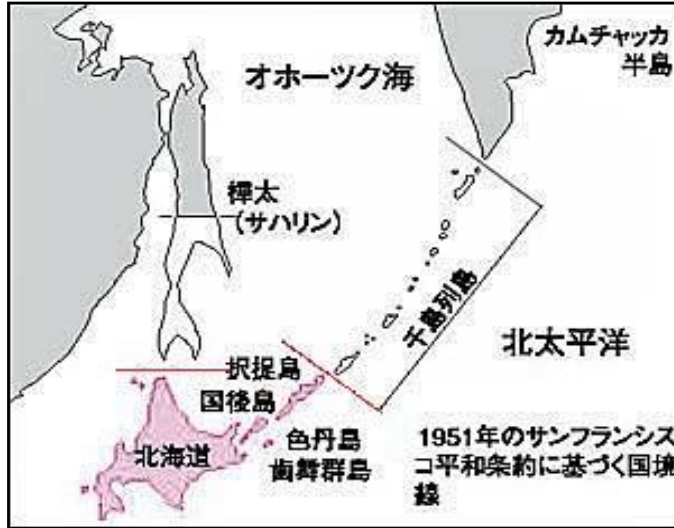
1 北方領土とは

(1) 北方領土の位置

一日も早く返ることを願って、日本がロシアに返還を要求している「北方領土」とは、北海道根室半島に近い^{はほまいぐんとう}歯舞群島、^{しこたんとう}色丹島、^{くなしりとう}国後島、^{えとろふとう}択捉島の四つの島の事です。

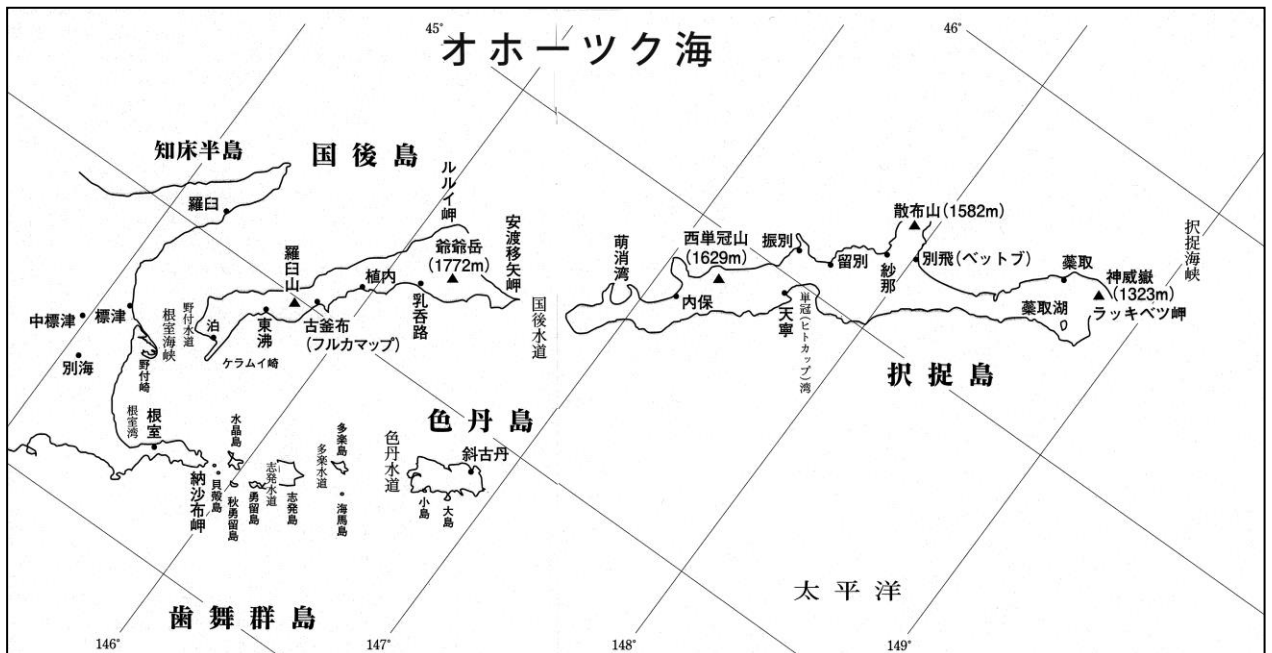
下の「北方領土位置図」をみましょう。

(北方領土の位置図)



歯舞群島は、根室半島の^{のさっふ}納沙布岬から、すぐ目の前に見える^{かいがら}貝殻島や、^{すいしょう}水晶島、^{あきゆり}秋勇留島、^{ゆり}勇留島、^{しほつ}志発島、^{たらく}多楽島などの島々からなっています。色丹島は、さらにその北東にある島です。国後島は、歯舞群島、色丹島の北側にあり、根室半島、^{しれとこ}知床半島にはさまれた位置にあります。択捉島は、国後島の北東にあり、北方領土の中では、一番大きな島です。

(北方領土拡大図)



北方領土は、現在ロシアに占拠されていますが、これらの領土の歴史的な成り立ち、国際法上のいろいろな取り決めなどから考えて、日本の領土であることは明らかであり、ロシアの占拠は、全く理由の成り立たないことです。

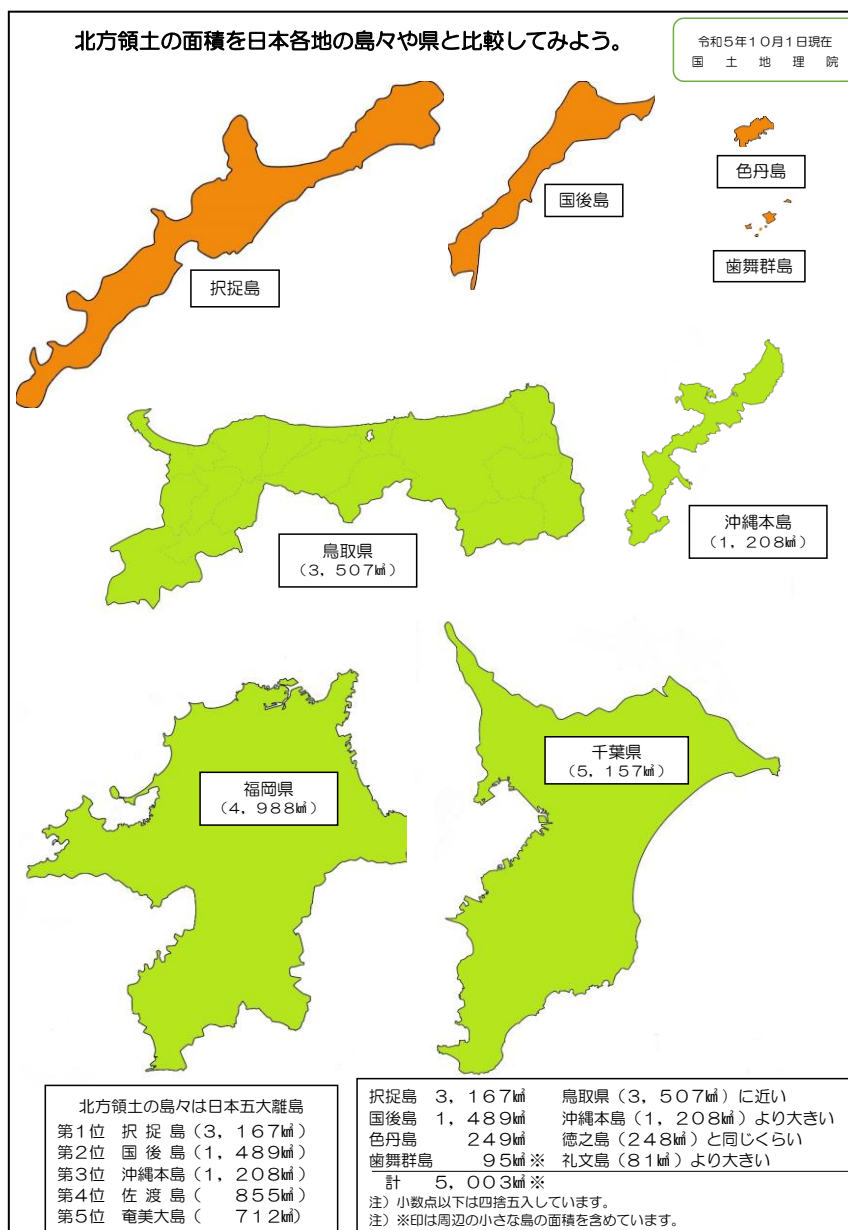
しかも、北方領土の島々は長い間かかって、わたしたちの祖先が大変な苦勞を重ねて開拓してきた島々なのです。

(2) 近くて広い北方領土（面積・距離）

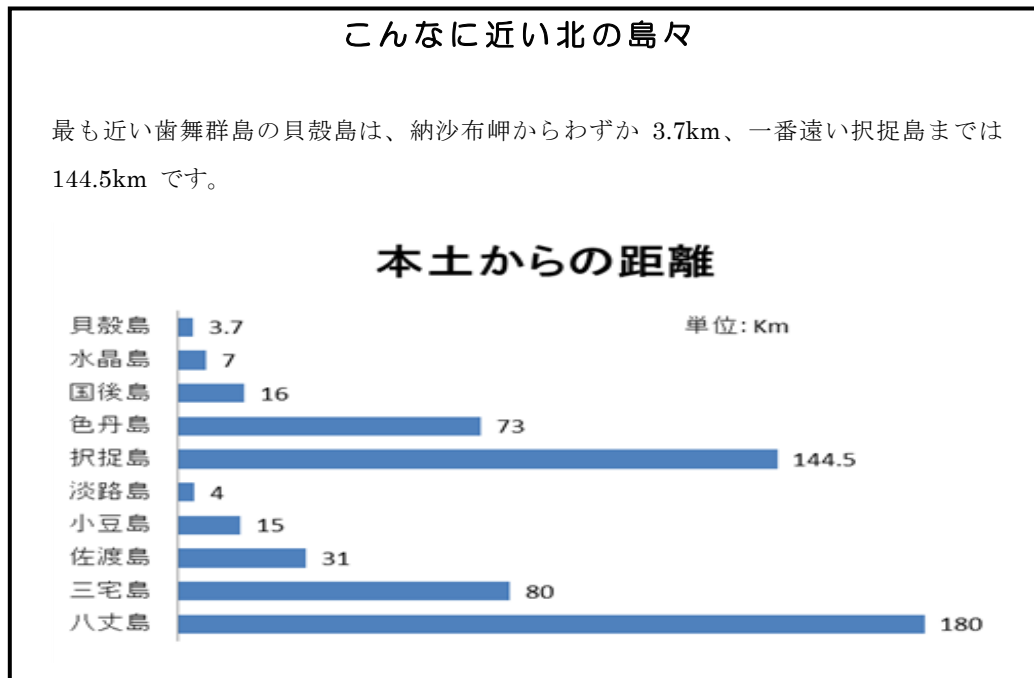
北方領土の島々といえば、北海道の北東の海上に浮かぶ小さな島々という感じを受ける人が多いかも知れません。しかし、実際には決してそうではありません。

北方領土の面積の総計は、5,003 km²で、この広さは、福岡県（4,988 km²）や千葉県（5,157 km²）とほぼ同じくらいに当たります。

また、四島のうち、国後・択捉の両島は、いずれも沖縄本島より大きく、特に択捉島（3,167 km²）は、東京都（2,194 km²）や大阪府（1,905 km²）の面積よりもずっと広く、鳥取県（3,507 km²）の面積に近い、日本で最も大きな島となっています。



根室半島の東端納沙布岬から貝殻島までの距離は、わずか 3.7km しか離れていません。次に近い水晶島までは 7km ですから、望遠鏡で人の姿さえはっきり見ることができます。^{のつけ}野付半島の東端から国後島までの距離は 16km で、冬、流氷におおわれると、まるで陸つづきになったように見えます。下の図でもわかるとおり、北方領土とはこんなに近くにある島々なのです。

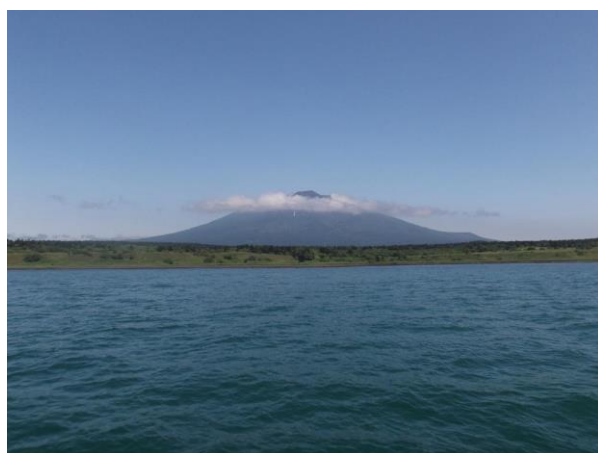


(3) 豊かな島、北方領土（島々の自然）

地形は、千島火山帯が走っているため、火山岩質の島からなっており、択捉島には^{ちりっぶ}散布山、^{やま にしひとかつぶやま}西単冠山、国後島には活火山で有名な^{ちゃちゃだけ}爺爺岳など 1,500m を超える山々があります。川は、択捉島にある最長のシベトロ川でさえ、28km ほどで、いずれも短かく、急流で、所々に滝があります。



^{ちのみち}国後島乳呑路沖から^{ちゃちゃだけ}爺爺岳を望む（昭和初期頃）
（国後島第一の秀峰で海拔 1,722 メートル。）



乳呑路沖から望む爺爺岳
（2011 年(平成 23 年)8 月撮影）

国後島ソコボイの滝

源は爺爺岳及びルルイ山
で林間より流れおちる様
は白帆のようです。



北方領土の島々は、全般的に平野は少ないが、それでも、国後島と択捉島では、海岸に沿ってかなりの平地が広がっています。その中に数多くの湖沼が散在しているのも特徴の一つとなっています。

歯舞群島と色丹島は、地質構造が根室半島とほぼ同じであることから、もともと根室半島と陸つづきであった所が、陥没などによって離島になったものと考えられています。したがってその地形はゆるやかな起伏のある丘陵地であり、ところどころ沼や段丘がみられる地形になっています。

北方領土と千島列島（すなわちウルップ島以北の島々）は、太平洋とオホーツク海を分ける位置にあって、北上する日本海流と南下する千島海流とが接しているため、これが、この地方の気候に大きな影響を与えています。

北方領土の島々の気温は、夏はあまり高くなりません。それでも、6月から10月までの5か月間だけは、月平均気温が10℃を超えますが、いちばん暑い8月でも月平均16℃です。それは、根室や釧路の海岸地方と同じように、夏に海霧（ガス）がかかり、日照時間が少ないことや、オホーツク海から冷たい空気が入ってくるためです。

冬の気温や降水量は、根室地方とほとんど変わらず、2月の平均気温が-6.5℃前後と北海道の内陸部よりあたたかく、雪も少ないという特徴があります。

北方領土と千島列島の島では、自然条件が異なり、動植物の分布にも大きな違いがあります。例えば、国後島、択捉島では北海道と同じようにヒグマが住み、千島列島の島には、シベリアと同じアカグマが住んでいます。また、ネズミ、ウサギなどの種類にも違いが見られます。

植物も同じように、択捉島とウルップ島間の択捉海峡を境に違っています。北方領土には北海道と共通の植物が多く、千島列島の島ではカムチャッカ半島と同種のものが多いということが、研究により明らかになっています。

